

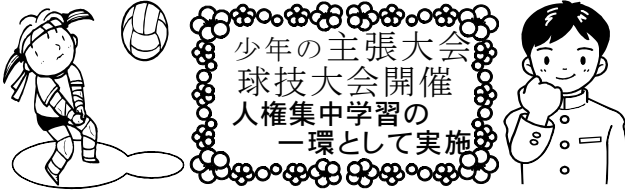
北斗通信

エバーオンワード(限りなき前進)

藤岡市立北中学校校長室通信

平成22年6月4日(金)

NO14(通算76)



少年の主張大会
球技大会開催
人権集中学習の
一環として実施

「球技大会」(8日火・10:25～)と「少年の主張大会」(11日金・13:40～)が開催されます。

球技大会では、学級の輪を求めて、上手な生徒が、苦手な生徒をフォローしながら、学級対抗で行われます。この大会では、勝敗にこだわるとは、お互いの健闘をたたえ合う態度と友情を育て、一人ひとりのよさを認め合うことを第一義的に考えています。

少年の主張大会は、代表者の主張を聞き、よりよい生き方、よりよい生活について、自分自身のこととして考え、実現していこうとする意欲や態度を高めることを目的に実施されます。

お忙しいとは思いますが、ぜひ子供たちの活躍ぶりをご覧くださいと思います。



落雷事故防止の徹底を
命に関わることです!

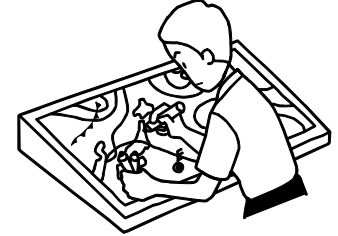
またこの時期がやってきました。忌まわしいでき事です。平成7年6月14日午後4時45分ごろ、当時本校の3年生だった生徒が、下校途中において落雷に遭遇してしまいました。そのとき着ていた体操服が今でも学校に保管されています。それを見るたびに落雷の怖さを感じます。そこで、落雷の被害にあわないために注意事項をあげます。ご家族でよく話し合ってくださいと思います。

雷鳴が聞こえる距離は10km程度、雷雲の範囲もその程度、雷鳴が少しでも聞こえたらすでに雷雲の下にいる。直ちに避難を開始する必要があります。

①鉄筋コンクリート建築物・住宅などの木造建築物に避難

電気の本流が外壁を伝っていくため安全。ただ

し、壁・柱・天井などから1メートル程度、テレビなどからは2メートル以上、他の電気機器・有線の電話・水道管なども1メートル程度離れたほうがよいといわれている。



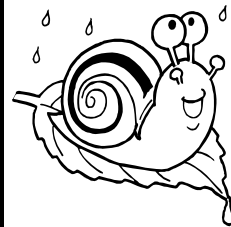
②自動車など周囲が金属で囲まれた乗り物に避難

全周を金属で囲われ、落雷してもこの金属部分を通るため内部への影響は少ない。ただし、ハンドル、車体、電装機器には触れないほうが無難。また、落雷の電気エネルギーによって火災が発生する可能性があるので過信は禁物。

③傘はなるべく差さない

雷はより高く、細いところに落ちやすい。傘を差す差さないのほんのわずかな違いが生死を分けるとのこと。釣竿なども同様。

④「高い木の下にいれば安全」は俗説、かえって危険



木よりも人体の方が電気を通しやすいので、幹付近で立っていると木に落ちた雷が幹を通らず人体の方を通過して地面に落ちる。木のそばに避難することは危険。木の高さの影響圏内で幹から離れてしゃがむ(うつ伏せは危険。できるだけ両足を開かず、身を低くする)などを行えば、危険性は減少。木の枝葉を含めて自分に最も近い先端部分から4メートル以上離れ、かつ、木の先端を45度の角度で見上げる範囲までに居るのが比較的安全。

何はともあれ、一刻も早く安全な場所に避難することが重要。ゴム長靴、ビニール製のレインコートを着けても安全ではない。

これからの季節、急に雨が降り出し、雷が鳴り出すことが多くなります。このぐらいは平気という思い込みがとても怖いのです。子どもさんの通学路を確認していただき、避難場所を確認しておくことも必要です。学校でも、下校のとき、近くに雷雲が発生していたときなど、下校時間を遅らせることがありますので、承知ください。

雷鳴が聞こえる距離は 10km 程度で、雷雲の範囲もその程度、したがって雷鳴が少しでも聞こえたらすでに雷雲の下にいると思い、直ちに避難を開始する必要があります。

鉄筋コンクリート建築物・住宅などの木造建築物に避難

電気の本流が外壁を伝っていくため安全。ただし、壁・柱・天井などから 1メートル程度、アンテナのような屋外の被雷しやすいものにつながっているテレビなどからは 2メートル以上離れ、電気機器・有線の電話・水道管なども 1メートル程度はなれたほうがよいといわれています。

自動車など周囲が金属で囲まれた乗り物に避難

自動車など乗り物の内部は比較的安全。全周を金属で囲われ、落雷してもこの金属部分を通るため内部への影響は少ない。ただし、ハンドル、車体、電装機器には触れないほうが無難。また、落雷の電気エネルギーによって火災が発生する可能性はあるので過信は禁物。

傘はなるべく差さない

雷はより高く、細いところに落ちやすい。傘を差す差さないのほんのわずかな違いが生死を分けること。釣竿なども同様。

「高い木の下にいれば安全」は俗説、かえって危険

木よりも人体の方が電気を通しやすいので、幹付近で立っていると木に落ちた雷が幹を通らず人体の方を通過して地面に落ちる。木のそばに避難することは自殺行為。木の高さの影響圏内で幹から離れてしゃがむ（うつ伏せは危険。できるだけ両足を開かず、身を低くする）などを行えば、危険性は減少。木の枝葉を含めて自分に最も近い先端部分から 4メートル以上離れ、かつ、木の先端を 45度の角度で見上げる範囲までに居るのが比較的安全。

何はともあれ、一刻も早く安全な場所に避難することが重要。
ゴム長靴、ビニール製のレインコートを身に着けても全く安全ではない。